2018年4月20日

テストマーケティング株式会社

国内医療用医薬品 54 領域の市場動向と将来予測を分析。2017 年の市場規模は 8 兆 4,202 億円(1.6%減)となり、調査対象 54 領域の市場はマイナスへ転じている。2028 年市場予測は 8 兆 5,128 億円 (1.1%増) と微増にとどまる。

一肝炎治療剤は前年より 2,384 億円の大幅減少。2028 年まで成長が期待される領域は ADHD 治療剤、喘息・COPD 治療剤など 26 領域一

テスト マーケティング株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：金塚進）は「医薬品市場へのアクセス 2018」において国内医療用医薬品市場 54 領域（国内医療用医薬品販売高 97.0%をカバー）の販売動向と将来予測について調査を行い資料をまとめました。

【調査概要】

1. 調査対象期間：2018 年 2 月～4 月
2. 調査対象領域：54 領域（3 頁参照）
3. 出荷ベースによる販売高にて算出

【調査結果サマリー】

- 2017 年における国内医療用医薬品総販売高は 8 兆 6,800 億円（対前年比 98.9%）、調査対象の 54 領域における総販売高は 8 兆 4,202 億円（対前年比 98.4%）となり、僅かではあるが前年実績を下回った

2016 年から縮小した割合が大きかった領域は肝炎治療剤 2,009 億円（対前年比 45.7%）、次いで脳血管障害治療剤 147 億円（対前年比 90.2%）、狭心症治療剤 223 億円（対前年比 90.7%）となりました。肝炎治療剤は「ハーボニー」「ソバルディ」などの C 型肝炎抗ウイルス剤が実績を大きく落とし 2016 年から 2,384 億円の減少となりました。この背景には治療を終えた患者の多くが完治するため処方機会が急激に減少したことが挙げられます。その他、前年から実績を減らした領域はジェネリック医薬品の浸透が進んでいることや、製品サイクルの衰退期を迎えている製品群が市場を構成している傾向が見られます。前年よりマイナス成長となった領域は 54 領域中 19 領域でした。

一方で 2016 年からプラス成長となった領域は 35 領域となり、抗癌剤は 1 兆 1,123 億円（対前年比 106%）、リウマチ治療剤 3,012 億円（対前年比 107.6%）と実績を伸ばした領域は多くありましたが、肝炎治療剤市場、等大きく実績を減らした領域を補うことはできず調査対象の 54 領域市場全体としては縮小となりました。

- 領域別における 2008 年からの 10 年伸長率では、ADHD 治療剤が 2,253.3%でトップとなった。最も市場規模の大きい抗癌剤の 10 年伸長率は 190.2%

2017 年の ADHD 治療剤は 338 億円となり、2008 年からの 10 年間で 2,253.3%の伸長率となりました。2007 年に発売された国内初となる ADHD 治療剤「コンサータ」は 2013 年に 18 歳以上の成人期への適応追加が実績拡大の後押しとなり、また 2017 年には塩野義製薬から新製品となる「インチュニブ」が発売されたことから、今後も ADHD 治療剤は拡大を続けるとみられます。次に伸長率の大きい肺高血圧症治療剤 605 億円（伸長率 364.5%）や伸長率で 3 位となるリウマチ治療剤 3,012 億円（伸長率 327.7%）は新製品が活発に発売されたことで市場が拡大されており、ジェネリック医薬品の影響が小さく今後も実績を拡大して行く見込みです。また、領域別の市場規模トップである抗癌剤の 10 年伸長率は 190.2%で 15 位となり、今後も拡大が続くと予測しています。

- 調査対象 54 領域の 2022 年の市場規模は 8 兆 5,125 億円(2017 年比 101.1%)と予測。2028 年は 8 兆 5,128 億円（2017 年比 101.1%）と見込む

2017 年比で 2022 年も成長が見込まれているのは ADHD 治療剤 235 億円増（2017 年比 169.5%）、皮膚関連疾患 157 億円増（2017 年比 127.9%）、ウイルス感染症治療剤 425 億円増（2017 年比 127.0%）となり、54 領域中 33 領域でした。ADHD 治療剤は新製品の発売による市場の活性化が想定され、皮膚関連疾患も新製品、開発品の数が豊富でバイオ製剤が市場拡大を後押ししていることからジェネリック医薬品の影響も少なく今後も拡大が見込まれます。ウイルス感染治療剤は 2017 年にインフルエンザ剤の「ゾフルーザ」が発売となりインフルエンザ流行の影響を受けるものの市場規模の拡大が見込まれています。なお、市場規模の大きい抗癌剤 877 億円増（2017 年比 107.9%）や糖尿病治療剤 372 億円増（2017 年比 107.6%）などは今後も国内医療用医薬品市場拡大に寄与していくことが見込まれます。

また、2028年まで成長が見込まれる領域としては、新薬、開発品が非常に豊富で免疫チェックポイント阻害剤だけではなく遺伝子変異をターゲットとした製剤にも期待が集まる抗癌剤市場の1兆3,500億円、バイオ製品が市場を牽引しJAK阻害剤が市場拡大の後押しをしているリウマチ治療剤市場3,400億円、新しくバイオ製剤が登場し適応拡大、配合剤などの開発が活発な喘息・COPD治療剤市場3,100億円など26領域と予測しています。市場が成長している領域は近年発売された製品が市場を拡大し、またパイプラインが充実していること、ライフサイクルマネジメントが盛んであること、バイオ製品などジェネリック医薬品の影響が比較的少ない製剤を扱っているなどの傾向が見受けられます。

一方で2022年に2017年よりも縮小が予想されるのは、肝炎治療剤市場950億円(2017年比47.3%)高血圧治療剤市場4,200億円(2017年比70.5%)など21領域、2028年には28領域で市場が縮小すると予測しています。市場が縮小していく領域は高血圧治療剤市場を筆頭にジェネリック医薬品の浸透が顕著であることに加え長期収載品の薬価下落によって規模が縮小していく傾向が見られます。肝炎治療剤市場は「ハーボニー」「ソバルディ」などのC型肝炎ウイルス治療剤市場が投薬対象患者の減少に伴って縮小し2017年の50%を下回る市場規模で推移していくと見込まれています。消化器・腸疾患関連治療剤

【調査対象 54 領域一覧】

高血圧症治療剤	抗癌剤	片頭痛治療剤	消化器・腸疾患関連治療剤	子宮内膜症・子宮筋腫治療剤
不整脈治療剤	癌治療補助剤	認知症治療剤	膝疾患治療剤	産科・婦人科関連疾患治療剤
狭心症治療剤	細菌感染症治療剤	A D H D治療剤	喘息・COPD治療剤	麻酔剤
心不全治療剤	ウイルス感染症治療剤	脳血管障害治療剤	感冒関連治療剤	筋弛緩剤
血栓・塞栓治療剤	肝炎治療剤	多発性硬化症治療剤	抗アレルギー剤	免疫抑制剤
肺高血圧症治療剤	真菌感染症治療剤	神経変性疾患治療剤	アトピー性皮膚炎治療剤	眼科用剤
脂質異常症治療剤	うつ病治療剤	消炎鎮痛剤	皮膚関連疾患治療剤	輸液・栄養剤・ビタミン剤
糖尿病治療剤	睡眠障害・不安症治療剤	リウマチ治療剤	腎不全関連用剤	造影剤
痛風・高尿酸血症治療剤	統合失調症治療剤	変形性関節症治療剤	血液製剤・止血剤	生活改善剤
低身長症治療剤	パーキンソン病治療剤	骨粗鬆症治療剤	前立腺肥大症治療剤	ワクチン製剤
ライソゾーム病治療剤	てんかん治療剤	潰瘍治療剤	頻尿・尿失禁治療剤	

【資料体裁】

資料名：医薬品市場へのアクセス 2018

発刊日：2018年4月20日

体裁：A4判 616頁

定価：300,000円（税別）

【問い合わせ先】

テストマーケティング株式会社

所在地：東京都中央区日本橋大伝馬町2-1-4 パールビル4階

TEL:03-5642-3768 FAX:03-5642-3778

担当者：メディカルディビジョン 鶴 和夫